



# 三木市 若手職員インタビュー（消防職）





# 若手職員インタビュー (消防職)



## No.1 M.Sさん(消防職)

消防署  
救急救助課

### 信頼関係が基となる現場活動

私は入庁4年目で、救急救助課救急係に所属しています。主な業務内容としては、日々の現場活動の他に、救急出動に関する統計や、職員のワクチン接種の管理、市民の方々へ向けての心肺蘇生法講習会などを行っています。また、事務的な業務以外にも、救急搬送や消火活動など現場での活動も行っています。

危険が伴う現場活動では、緊張感のある中での的確な指示を出している先輩や上司の方々も、平常時は優しく気さくに話しかけてくださいます。分からないことをそのままにせず、聞きやすい雰囲気を作ってくれていることが、現場での大きなミス減らすことに繋がっていると思うので、私自身も先輩方のような消防職員になることを目標としています。

私が三木市消防署で働きたいと思ったきっかけが、高校生の時に参加した職業体験でした。過酷な訓練をしている中でも、職員同士のコミュニケーションが多くあったため、信頼関係がしっかりと築かれている印象が強く、とても安心感がありました。

大変なことも多く、人の生死が身近にある職業ですが、やりがいや達成感、責任感を日々感じながら成長できる魅力的な職場です。是非、災害現場の最前線で活躍する一員になりましょう！

## No.2 A.Yさん(消防職)

消防本部  
総務課

### 誰かの役にたてるよう学ぶ

私は高校卒業後の入庁3年目で、消防本部総務課の管理係に所属しています。1年目は兵庫県消防学校に入学し、半年間の初任教育を経て各所属に配属されました。

初任教育では、警防・救急・救助に加え、火災を未然に防ぐ予防業務、公務員並びに消防に関する法令等、幅広い知識・技術について学びます。その後、各署に戻り訓練を重ね知識・技術の向上を図るとともに、現場で安全・確実・迅速な活動を可能にするため体力錬成に励みます。

職場の雰囲気はとてよく、訓練等で分からないことがあれば気軽に相談できる環境にあり、現場経験豊富な上司が数多くおられるので、日々の訓練で成長し、自信をもって現場で活動することができそうです。

消防は自分の身体が資本であり多くの責任を伴うため、不安に思うことがあるかもしれませんが、誰かの役に立つために知識・技術を学ぶ楽しさに気づくことで、その分多くのやりがい・達成感を得ることができる魅力的な職業です。

将来、少しでも三木市に貢献したいという同じ思いを持った皆さんと共に働くことを楽しみにしています。

## No.3 Y.Yさん(消防職)

消防署  
警防課

### 知識や技術をコツコツと

私は入庁2年目で、警防課消防係に所属しています。

日々の主な業務としては、火災・救急出動や訓練の他に、火災の発生原因を調査し報告書作成を行っています。

職場の雰囲気は良く、先輩方も気さくに話しかけてくださいます。上下関係はきちりしていますが、分からないことがあれば質問や相談などがしやすい雰囲気、疑問点のフォローもしっかりとくださいます。また、ベテランの当務司令から若手消防士までと一緒に訓練する機会を毎勤務設けており、現場対応の技術習得だけではなく、チームワークも培われています。

消防という仕事は市民の方々を守るためにも、日々勉強し新たな知識や技術を身に付けることや、体力向上に努めることが求められますが、それらを重ねると自信を持って現場活動や事務に臨むことができます。まだ入庁して間もないですが、私自身も生まれ育った三木市のために役に立てよう、引き続き自己研鑽に努め、様々な現場に対応できる消防士になりたいと思っています。

消防士を目指されている皆さん、私たちと一緒に三木市を守っていきましょう。

## No.4 R.Kさん(消防職)

消防署  
救急救助課

### 資格を活かして

私は入庁2年目で、現在は救急救助課救急係に所属しています。

普段の仕事内容は主に現場活動ですが、その他にも係の仕事として救急車に必要な物品を購入したり、日々の救急活動報告書のチェック、公民館や学校などを訪問し、心肺蘇生法の講習を行ったりもしています。

職場の雰囲気はとてよく、上司・先輩方は気さくに話しかけてくれます。何か困ったことがあっても相談や質問がしやすく、働きやすい環境であるため楽しく仕事に取り組んでいます。

私は専門学校で救急救命士の資格を取得しました。実際に自分の知識・経験で働けるのが不安でしたが、現場では常に救急救命士の先輩が同行してくださり、安心して活動することができます。

なぜ消防士を選んだかという、私が高校生の時に母が倒れ、その際駆け付けてくれた救急隊による迅速で確実な対応に感銘を受け、自分も人を助ける仕事になりたいと思ったからです。より良い消防士になるためにも日々勉強し、多くの市民を助けられる存在になりたいです。